

問題や課題の解決に向けて粘り強く研究に取り組み、  
生活や社会をきりひらく生徒の育成

○研究テーマに対する教科の目標

	豊かな創造性	たくましい実践力
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決のための知識・技能を身につけ、物事を多角的な視点で考えることができる。</li> <li>自分の興味・関心が何なのかを見つけることができ、探究・追究していくための問いを立てることができる。</li> <li>身の回りにある事象に対して、疑問をもつことができる。</li> <li>問題を発見し、課題解決に向けて動くとき、学んだ「知識・技能」を使おうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の強みと弱みをわかっている。</li> <li>目標設定をし、達成に向けての計画を立てて取り組むことができる。</li> <li>できる・できないにかかわらず、行動に移すことができる。</li> <li>上手くいかなかったときに、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決のための知識・技能を身につけ、解決に向けて多角的に柔軟性をもって対応していくことができる。</li> <li>問題を発見し、課題解決に向けて動くとき、学んだ「知識・技能」を使おうとしている。</li> <li>自分の興味・関心が何なのかを見つけることができ、探究・追究していくための問いを立てることができる。</li> <li>身の回りにある事象に対して、疑問をもつことができ、解決（解明）する問いにしていくことができる。</li> <li>自身のウェルビーイングを実現するためには、何が必要かについて考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の強みと弱みをわかったうえで、足りないものが何かを考え、強みに変えていく努力ができる。</li> <li>目標設定をし、計画的に実行に移すとともに、試行錯誤しながら目標達成に向けて取り組むことができる。</li> <li>課題解決、自己実現に向けて行動に移すことができる。</li> <li>上手くいかなかったときに、どうすれば上手くいくかを考えることができ、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決のために、身につけた知識・技能を必要に応じて取捨選択し、「生きて働く知識・技能」として使うことができる。また広い視野を持ち、新たな視点や多角的な視点で問題解決のためのアイデアを出すことができる。</li> <li>自分の興味・関心から、探究・追究していくための問いを立てることができる。</li> <li>身の回りや社会、世の中にある事象に対して、疑問をもつことができ、解決（解明）する問いにしていくことができる。</li> <li>確かな情報を集めることができる。そして、そこから自身の考えを構築できる。</li> <li>自身のウェルビーイングを明確にし、実現のために自分にできることを考え、行動に移すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分を分析し、強み弱みを理解したうえで、さらに自己を高めるために必要な方法を見出し努力することができる。</li> <li>目標を設定したうえで筋道を立てて論理的に考え、計画的に実行に移すとともに、試行錯誤を繰り返しながら、目標達成に向けて取り組むことができる。</li> <li>課題解決や自己実現に向けて、前向きに取り組んだり、行動に移したりすることができる。</li> <li>上手くいかなかったときに、改善点を見出すことができ、すぐに諦めることなく、粘り強く取り組むことができる。課題の解決や、自分と他者、社会のウェルビーイングの実現に向けて、諦めずに努力し続けることができる。</li> </ul>



### 生活をきりひらく

- ・自分の身の回りや社会にある問題に対して問題意識を持ち、解決に向けて行動したり、未だ解明されていないことに対してとことん追究したりすることができる。
- ・社会を構成する一人であるとの自覚を持ち、当事者意識をもって行動することができる。
- ・ウェルビーイングの実現に向けて、どうすれば実現可能かを考え、前向きに取り組もうとする。
- ・何か問題が生じたときに、解決に向けて、自ら行動を起こすことができる。
- ・自ら問題を発見し、その解決に向けて行動することができる。
- ・積極的に社会の中で活躍しようとしたり、自分の良さを生かしたりしようとしている。
- ・広い視野で物事を捉え、考え、ときに他者と協力しながら自身のウェルビーイングと他者のウェルビーイング、さらには社会のウェルビーイングの実現のために、行動を起こすことができる

## ○教科の探究

自身や社会のウェルビーイングの実現に向けて、問題発見をし、課題解決に向けて行動することができる生徒を育成していくために、総合的な学習の時間では、探究的な活動を行う。学習指導要領の2章「総合的な学習の時間の目標」第1節「目標の構成」には、「探究的な見方・考え方を働かせること」、他の教科の学習を踏まえ「横断的・総合的な学習を行うこと」、そして「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく」ために必要な資質・能力を育成することが明記されている。それらの資質・能力を育てていくには、探究的な学習が必要であると考えられる。

総合的な学習の時間では、自ら問い（課題）を設定して、個人探究を行っていく。問い（課題）を解決していく過程で、各教科の見方・考え方を取り入れて、自ら立てた問いにアプローチしていく。また、探究を進めて行く際には、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のプロセスを繰り返すことができるよう取組を行っている。

また、実現したいウェルビーイングの形は一人一人違うという考えから、総合的な学習の時間での探究的な活動は個人で行うこととし、生徒一人一人が研究テーマを設定し実施している。しかし、研究を進めるにあたっては、研究の問いや方向性が似ているなどもある。その場合は、グループを作り共同研究という形で研究を進めていくなど、協働して行うこともある。

### 【課題の設定】

自分自身の興味関心、社会にある問題や課題に目を向け、深く追究したり、問題や課題を解決したりするための問いを立て、具体的かつ明確な計画を設定する。そのために、自分自身を知るための活動を取り入れる。また、グループ内でアイディアを出し合い、多様な視点を取り入れ、問や計画の質を高めていく。

### 【情報の収集】

問いに迫ったり、解決に近づいたりするために、必要な情報を集めていく。その際、ウェブサイトやアプリ、新聞、書物など専門性と信頼性の両面で精査し、調べる方法を決めながら情報を収集する。

アンケート調査やインタビューなどの現地での調査を通して、直接的な情報や意見を収集し、課題の実態をより深く理解する。また、これらは個人的な情報を収集することになるため、取扱い等に注意が必要であることも同時に学習していく。（情報収集にあたっては、学校以外のその他機関（大学、行政、企業、団体など）にも生徒自ら連絡をとり、依頼していくこともある。）

### 【整理・分析】

収集した情報を整理・分析し、自身の問いの追究や解決に必要なものを取捨選択して用いるようにしていく。また結論を出していくには、一つの情報だけで判断すべきではないため、多くの情報を整理したうえで多面的に考え、総合的に考える必要がある。そして、自身の考えの根拠となり得るかを検証していく。

さらに、仲間との意見交換を通じて自分の考えを客観的に見直し、自己の考えを整理分析する。そこから、新たな視点を得る機会を設ける。

### 【まとめ・表現】

活動を通して得られた研究結果や学びによる自己の変容等、自分の考えや思いをまとめ、発表をする機会を設け、レポートやプレゼンテーションなどを行っている。

発表は一度だけではなく、中間発表、最終発表等複数回機会を設けることで、自身の研究を振り返り、今後の研究活動につなげられるようにしている。また、レポート作成については書き方を示し、どのようにまとめていくのかを知ったうえで、まとめる機会を設定している。

## ○教科の探究

【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ

【情報の収集】必要な情報を取り出したり収集したりする

【整理・分析】収集した情報を、整理したり分析したりして思考する

【まとめ・表現】気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

## 【1年生】プレ公開Ⅲ指導案

### 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時 令和7年7月3日(木) 第5限

場 所 第1学年各教室(教室棟1階)

指導者 鈴木将弘 庄山大樹 山下裕之 嵯峨恭代

加藤隆彦 小泉晶子 林歌織

#### 1. 題材名 あなたにとって魅力ある学校とは？

#### 2. 探究について

第1学年では、「生徒の実態から始める探究」ということを大切に進めてきた。生徒たちにとって最も身近なことは所属する学級集団や学校である。今回の単元を通して、自分たちの現状に目を向け、問題点を見つけ、その改善方法について仮説を立てる。その後、実際に行動に移し、結果として改善されたかどうかを分析する。その過程で探究のスキルを経験させ、2学年以降の探究の基盤を身につけることを目標とする。

#### 3. 目標に向けてのアプローチ

第1学年の生徒たちは少しずつ学校生活に慣れてきた頃である。それゆえに各学級において、良い部分も出てくれば、改善すべき部分についても表出してくる時期である。具体的には、学年全体としてノリが良く、楽しいと感じる生徒がいる反面、附属小学校から進学してきた生徒と外部から入学してきた生徒の間に感覚のズレがあり、そこに悩んでしまう生徒もいる。1学期のこのタイミングを見逃さず、生徒の本当の気持ちや考えを学級内で出し合い、集団としてさらに成長していけることをねらいたい。

また第2学年以降の探究では実際に自分の興味関心に基づいた探究を進めていく。そのため、1年生の間に探究の基盤を身に付けさせたい。具体的には自分たちの学級の問題点を見つけ、その改善策を検討する。次に、考えた改善策を実際に行動に移し、その結果として学級の問題点が改善されたかどうかを考察する。ここまでは生徒にとって初の探究となるため、教師主導で明示的に探究について指導していく。

その次はさらに視野を広げ、学校について考える。各々が魅力ある学校について研究をしていく。ここからは今までの学習を生かし、生徒たちが自分たちで探究を進められるように、教師はファシリテーターとして振る舞うようにする。これらの経験を経て、探究の重要性、楽しさに気付くことをねらいたい。

#### 4. 全体計画(全7時間)

時間	学習活動
第1時	「自分たちの学級の良さの問題点は？」 実際に自分たちの所属集団を見つめ直す
第2時	「どうすれば学級は改善していける？」 自分たちが見つけた問題点に対してどんなアプローチをすれば改善していくか、考える。
第3時	「実際にやってみた結果を分析、考察してみよう！①」 自分たちが試してみた結果を交流し、分析、考察する。
第4時	「実際にやってみた結果を分析、考察してみよう！②」

	自分たちが試してみた結果を交流し、分析、考察する。
第5時	「魅力ある学校とは？」 自分にとっての魅力ある学校について考える。
第6時 (本時)	「附中を魅力ある学校にするには？」 自分が思う魅力ある学校に近づけるために、何をするか考える
第7時	「夏休みに何を調査してくる？」 夏休みに各自で附属中をよくするために何をすればいいのか考える。

## 5. 本時の指導

### (1) 目標

- ① 魅力のある学校について多角的に考えている。 [知識及び技能]
- ② 自分が思う魅力ある学校へ近づけるために、どんな行動をするか考えている。  
[思考力、判断力、表現力等]
- ③ 具体的な方法を考えようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

### (2) 指導計画 (50分)

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
1. 前回の振り返りの確認	○前時で各生徒が考えた魅力ある学校について確認する。
【課題】魅力ある附属中学校にするために、あなたは何をすればいいと思うか。	
2. 魅力ある学校に必要なと思うもの トップ3を決める。  各自で考える。 グループで交流し、質問しあう。	○自由に考えるようにする。  ○生徒の考えているものを見て、本当に実現可能なのかなど ファシリテートしていく。 ◆生徒が立てた魅力の実現に近づいていくことを考えている か。
3. どんな行動をしていくのか用紙にま とめる。	
4. 本地の振り返り	○本時で考えたことをフォームで入力するよう指導する。

## 【2、3年生】プレ公開Ⅲ指導案

### 総合的な学習の時間 学習指導案

日 時	令和7年7月3日(木) 第5限
場 所	第2・3学年各教室(教室棟2、3階)
指導者	2、3年生の教職員全員(17名)

#### 1. 題材名 附中クエストに出かけよう

#### 2. 探究について

探究は単なる知識の習得や調べ学習にとどまらず、自分の問いを社会の課題や他者との関わりの中、または自分自身の中に位置づけながら、主体的に深めようとする営みと捉えながら授業を行っている。テーマを散見すると、生徒にとっては「社会の課題に目を向け、自分にできることを考え、他者に伝えるために試行錯誤する時間」であり、さらに「自分自身の課題や生き方と向き合う時間」であると生徒たちは捉えている様子がある。

調べたことを他者に伝えることの意義を見出し、発表や提案といった実践的なアウトプットを行うことで資質能力の涵養を目指している。それに加え、探究活動を通して「社会に働きかける手段」や「自分の生き方を考えるプロセス」に視点をおき活動を行う姿を目指す。例えば、地域の課題に関するアンケート調査を行ったり、保護者や地域の方々に向けたインタビューや実地調査を行ったり、実社会とのつながりを意識した探究活動を行うことを目標とする。また、「自己分析」や「自分研究」といった個人的なテーマを選び、自らの内面や将来について深く考察する姿も予想される。たとえば、「自身の運動パフォーマンスに目を向けたテーマ」といった問いを立て、自分を客観的に見つめながら答えを探る過程は、生徒にとって重要な学びとなると考えられる。

以上のように、探究の捉え方は「社会に働きかける学び」と「自己を深める学び」の両面を持ち、個々に応じて生徒の中でその意味づけが深まることを目指している。2・3年生の探究は自らの関心と社会的視点とを往還させながら、実践的に学びを進めている。

#### 3. 目標に向けてのアプローチ

目標を達成するために、探究のプロセスを「問いの設定」⇒「情報収集・整理」⇒「分析・考察」⇒「発表・振り返り」⇒「問いの設定」…のサイクルとして構造化し、学年間で段階的に深めることを意図したカリキュラムを設計している。グループ探究や個人探究を通じて、社会課題を自分ごととして捉える視点を養い、実社会へ発信する場としてのプレゼンテーションを用いた発表を行っている。また、本年は探究の質の高まりと、不安の軽減を目的とした教員との面談を行っている。

学校独自の取り組みとして「附中クエスト」を設け、月に1回程度2コマ分の時間を事前に確保することで、生徒が学校外での調査活動や体験活動を実施できるようにしている。また、附中クエストに向けては1コマ×2回の準備時間を設け、生徒が教員との面談を通じて目的、方法、行動計画、安全管理などについて計画を立てることで、探究の質と主体性の向上を図っている。

『附中クエスト』はアンケート調査、実地調査、実験など学びと体験が重なり合い、探究活動が社会参画の入り口となり「誰かのために学ぶ」という意識の芽生えに寄与し、ウェルビーイングの素地にもなると考えられる。さらに、各活動の節目では振り返りを取り入れている。振り返りの時間を設けることで、自己の変容を自覚し、次の探究への意欲へとつなげている。

#### 4. 全体計画（全7時間）

時間	学習活動
第1時	「テーマを伝えよう」 類似テーマは統合し、必要に応じてグルーピングする。
第2時	「第一回附中クエストに向けて計画を立てよう①」 問いやテーマを担当教員と面談を行いながら精選する。 実験方法や調査方法について担当教員と面談を行いながら決めていく。
第3時	「第一回附中クエストに向けて計画を立てよう②」 担当教員との面談を通じて、探究の計画を立てる。
第4・5時	「第一回附中クエスト！」 各自テーマに応じて実験や調査を行う。校外での活動も行うことができる。
第6時	「第二回附中クエストに向けて計画を立てよう①」 第一回附中クエストの反省を活かして次の計画を立てる。
第7時	「第二回附中クエストに向けて計画を立てよう②」 担当教員との面談を通じて、探究の計画を立てる。
第8・9時	「第二回附中クエスト！」 各自テーマに応じて実験や調査を行う。校外での活動も行うことができる。
第10時	「発表の準備をしよう」 中間発表に向けてスライドなどの準備を行う。
第11時 (本時)	「途中経過を発表しよう（中間発表）前半」 テーマ、目的、方法、進展状況を伝える。
第12時	「途中経過を発表しよう（中間発表）後半」 テーマ、目的、方法、進展状況を伝える。
第13時	「夏休みの計画を立てよう」 夏休みを利用してできる活動を計画する。
第14時	「第三回附中クエストに向けて計画を立てよう①」 夏休みの取り組みを交流する。 第二回附中クエストの反省を活かして次の計画を立てる。
第15時	「第三回附中クエストに向けて計画を立てよう②」 担当教員との面談を通じて、探究の計画を立てる。
第16・17時	「第三回附中クエスト！」 各自テーマに応じて実験や調査を行う。校外での活動も行うことができる。
第18時	「本発表の準備をしよう」 本発表に向けてスライドなどの準備を行う。
第19・20時	「附中クエスト達成記念日（本発表）」 探究の成果を報告する。発表の注意点到留意して取り組む。
21時	「レポートにまとめよう」 成果を文章化する。

5. 本時の指導

(1)目標

- ① 探究テーマに関する情報や資料を整理して、問いの背景や意図を聞き手側の様子に合わせてながら「伝わる」ように発表することができる。 [知識及び技能]
- ② 発表中に聞き手の状況に応じて、臨機応変に対応することができる。また、他者の探究に触れ、意見交換をしたりする中で表現の多様さや視点の違いに気づくことができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- ③ 自他の学びを認め合い、共に高めようとするすることができる。 [学びに向かう力、人間性等]

(2) 指導計画 (50分)

学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
1. 目標の確認をする。	○中間発表の目標を確認する。
<b>【目標】「伝える発表」から「伝わる発表」へ</b>	
2. 小グループで発表を行う。 発表を聞きに行く。	<p>前時までに「伝える」と「伝わる」の違いについて学習を行っておく。 発表に関するマナーについて、事前に指導をしておく。</p> <p>○教室内に4つのブースを作る。 ○各ブースの割り当て時間は教室の発表テーマ数に応じて、事前に決めておく。 13:45～13:55 第1グループ 15:55～14:05 第2グループ 14:05～14:15 第3グループ 14:15～14:25 第4グループ (多い教室は特別教室も活用する)</p> <p>○割り当て時間以外は発表を聞きに行く。 立ち聞きを基本とする。 移動中や聞く態度に留意する。</p> <p>○グループ探究を行っている場合は全員が必ず1回は発言するようにする。 ○発表者はiPadを提示して発表する。 ○質疑応答は口頭で行う。 ○必要に応じてフォームを作成する。</p>
3. 教室に戻り、次回の予定を確認する。	<p>○探究教室に戻るよう促し、次回の予定を提示する。 ○発表について、振り返りフォームを記入する。</p>

【参考】

○「伝える」と「伝わる」の違い

比較項目	「伝える」	「伝わる」
主体(主語)	話し手・書き手	聞き手・読み手
意味	自分の考えや情報を相手に届けようとする行為	相手はその内容を理解・共感した状態
成立条件	自分が意図を持って話す・書くことで成立	相手が受け取り、意味をくみ取り、腑に落ちたときに成立
成否の判定	発信側の行為なので、言葉を発した時点で「伝えた」ことになる	受信側の理解を伴うので、相手の反応・理解・納得があって初めて「伝わった」ことになる
例え	発表すること	発表から新たな意見や考えが聞き手側に生まれること

○振り返りフォームの内容

《自己評価：自分の発表について》

- ①「伝える」から「伝わる」にするために、工夫したことや今後どんな工夫が必要だと思ったか？
- ②印象に残った発表や学びになった発表はどれか？
- ③その理由は？(内容・話し方・構成・問いなど)
- ④他の人の発表を聞いて、自分の探究に生かしたいと思ったことは？
- ⑤次の探究等に向けて、自分が一番力を入れたいところはどこか？